

## 学習の要点

室町時代の争乱は、世の中にどのような影響を与えたのだろう。

### ○南北朝の争乱

後醍醐天皇



足利尊氏



- ・後醍醐天皇の**建武の新政**に武士たちの不満が高まる
- ・足利尊氏が兵を挙げ、新しい天皇を立て京都に**幕府**(北朝)を開く
- ・後醍醐天皇は奈良に逃れる(南朝)
- ・60年間争う南北朝時代へ

・各地で力をつけた**守護大名の登場**

### ○3代将軍：足利義満の政治



- ・南北朝の統一
- ・**倭寇**の取り締まりを行う。
- ・**日明貿易**により幕府に莫大な富が集まる。(勘合を使う)
- ・明銭の輸入→貨幣として使用

### 南と北の独自の文化圏

- (沖縄)  
**琉球王国**の成立
- ・尚氏が統一
- ・中継貿易で栄える。



- (北海道)  
**アイヌ**の活動
- ・本州との交易
- ・和人との衝突



### ○農村と都市の変化

農村：**惣(惣村)**では寄合で物事を決める

都市：港町として堺・兵庫・博多が栄える。門前町もできる。  
**座**と呼ばれる同業者の団体が利益を独占する。定期市の開催

農業の進歩：二毛作・肥料として人の糞尿も使用・牛馬の使用・かんがいの技術  
職業の増加：結い桶師・紙すき・馬借・車借・土倉・酒屋など  
(輸送) (高利貸し)

庶民が力をつけてくる・要求を力で押し通そうとする**一揆の発生**：  
正長の土一揆・山城の国一揆・加賀の一向一揆

### ○応仁の乱(1467年)

- ・8代将軍・足利義政の後継者争いが起こる。
- ・幕府の実力者、細川氏・山名氏の勢力争いがからむ。11年間に及ぶ争い
- ・各地で起こる**下剋上**の動き。(家臣が守護大名に取って代わる)

・**戦国大名が登場し、戦国時代へ突入する**



〈まとめ〉

南北朝の争乱による混乱の中、村や都市では**自治**が行われるようになり、**一揆**によって、領主の支配をはねのける地域も登場した。  
さらに、守護から成長した守護大名が現れるが、応仁の乱以後は**下剋上**の風潮から、**守護大名**にとってかわる**戦国大名**が領地を争うようになった。

